



コンゴ共和国プロジェクト 西原智昭 2013年04月

クリック募金による寄付は、2013年2月から4月までの期間では、引き続き、ゴリラの保全、調査、エコツーリズムを実施しているコンゴ共和国・モンディカの森での活動費（人件費、食糧費、維持費等）の一部に活用させていただきました。プロジェクトの全般的な進行状況はサイトをご参照ください（<http://congo.wcs.org/WildPlaces/MondikaResearchCentreDjekeTriangle.aspx>）。

2013年3月31日には、TBS世界遺産の番組『サंगा川流域の森林地帯～世界で唯一の湿地バイ』放映されました（西原監修）。日本人にはあまり知られていない野生のニシローランドゴリラの生態と社会、その生息地である熱帯林の様子を紹介され、その美しい映像が好評を得たようです。



写真1（左）. モンディカ・プロジェクトのマネージャー（中央）と二人のトラッカー ©WCS コンゴ共和国
図1（右）. 2012年に世界自然遺産に登録された地域（サंगा川流域の森林地帯） ©西原恵美子

前回のレポートでもご紹介いたしましたが、これまで当地で調査をしてきた WCS コンゴの研究者がモンディカのプロジェクト・マネージャーに就任しました（写真1）。彼の手腕により、研究とツーリズムを主としたプロジェクトは軌道に乗り始め、スムーズに進行中です。

このレポートの期間は、ゴリラの主要食物である森の果実が不足する時期にあたります。プロジェクトでは、新たにコンゴ人の研修者を招き、果実のない時期にゴリラが何を食べるのかの課題について、研究を実施・継続中です。果実食の場合は直接観察が仮にできなくても、ゴリラの糞を検分することで、その中に含まれる果実の種子からどの果実種を食べていたか知ることができます。しかし、果実のない時期には樹木の葉や樹皮、草本類の髄など繊維性食物を食べることが知られて入るものの、糞の分析ではその種類を明らかにすることは容易ではありません。それには、ゴリラのグループを追跡し、直接観察を通じて、どのような繊維性食物を食べているのか、具体的に明らかにすることができます。この研究手法は、すでに人付けされているモンディカのゴリラ（写真2）であるからこそ、可能なものなのです。

写真3は、現地語名でゴンベ（学名 *Celtis mildbraedii*）と呼ばれる樹木の樹皮をゴリラが食べているところです。過去の分析より、この樹木の葉や樹皮には、カルシウムなどの栄養分が豊富に含まれており、果実の少ない時期にゴリラがこれを摂取することで、必要な栄養分を補給しているものと考えております。



写真2 (左). 人付けされたシルバーバックのブカ ©WCS コンゴ共和国

写真3 (右). ゴンベの樹皮を食べるゴリラ ©WCS コンゴ共和国

人付けされたゴリラの二つのグループ（キングとブカ）の追跡調査は継続中で、GPS などを使用して、両グループの遊動域がさらに詳細に地図上に示されるようになりました（図2）。前回のレポートでも似たような地図を報告いたしましたが、今回はより精細に両グループの移動範囲の重なり部分が少ないながらも明瞭に示されました。またグループの中の個体数の多いキング・グループの方が遊動範囲が大きいと前回は結論されましたが、ブカ・グループも予想以上に遊動範囲が大きく、キングのものと同じくらい大きな差が見られないほどです。この地図は果実の不足する時期の資料を含んでおり、食物を探すためにブカ・グループも行動域を広めたことに起因するものと考えられます。こうした遊動域の調査も季節ごとに収集・分析し、季節の違い（あるいは森の果実の存在の有無）によりどのように変動するか、確かめていく必要があります。

このようにクリック募金は、野生のニシローランドゴリラの保全・研究活動に大きく貢献し続けていきます。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

図2. 二つのゴリラ・グループの遊動域（黄緑の地域がキング・グループ、黄の地域がブカ・グループ） ©WCS コンゴ共和国

